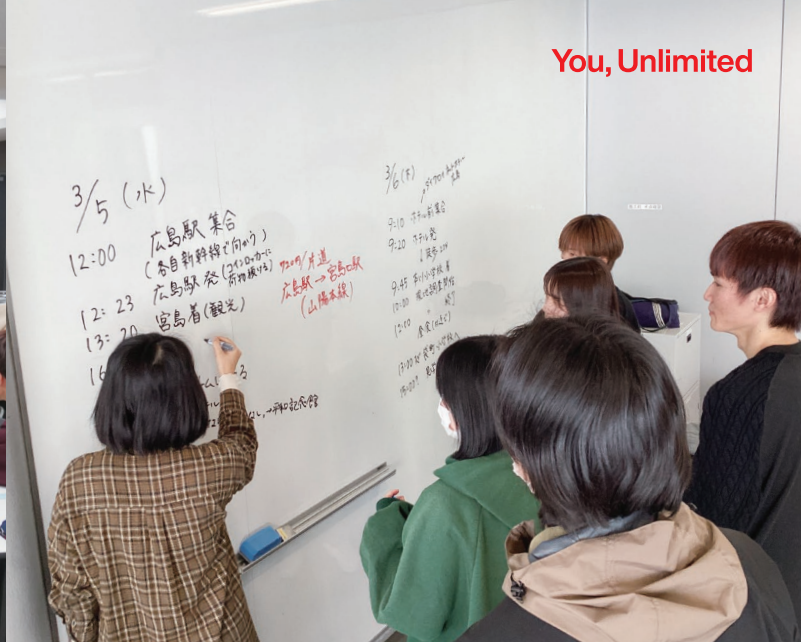




RYUKOKU
UNIVERSITY

Faculty of Law

法政アクティブリサーチ成果報告書
(2024年後期～2025年前期)

はじめに

2017年度に設置された「法政アクティブリサーチ」では、第8期生（2024年度後期～2025年度前期）もまた、多様なテーマでさまざまな団体へのヒアリング調査を行いました。本報告書はその内容を報告するものです。

「法政アクティブリサーチ」は、学生が主体となって、法制度や政治・行政の実態を調査し研究する科目です。通常の授業での座学と異なり、大学の外へ出てヒアリング調査を行うのが特徴です。具体的には、教員が決めた大テーマの枠内で受講生が具体的なテーマを設定し、ヒアリング調査先を探し、調査の日程を調整し、質問内容を考えます。調査実施後は、そのまとめと考察を行います。その過程でさまざまな問題が起こり、受講生は対応に追われたことでしょう。皆様には、報告書完成までの紆余曲折が受講生の成長を促したことに思いを馳せながら、ご一読下さい。本報告書がより味わい深く感じられるのではと思います。

報告書の完成までに、多くの方々のご協力を賜りました。お忙しい中、突然のヒアリング調査依頼に応じて下さった諸団体の皆様には、担当教員を代表して厚くお礼申し上げます。加えて、学生スタッフおよび法学部教務課の皆様にもお力添えいただきました。本報告書は、ご協力下さったすべての皆様のご厚意の結晶です。受講生の皆さんはそこにご厚意に報いるべく、さらに研鑽を重ねていただきたいと思います。

2025年6月24日

担当教員を代表して 山田 卓平

～目次～

はじめに	山田 卓平
寺川クラスの取り組み	寺川 史朗
松尾クラスの取り組み	松尾 秀哉
松尾クラス補助員のまとめ	下地 咲・平江 優菜
山田クラスの取り組み	山田 卓平

各クラスの調査報告書・・・・・・・・寺川クラス・松尾クラス・山田クラス

寺川クラス「平和スタディツアーを企画しよう！」	9
はじめに	11
第1章 平和スタディツアーの企画	11
第2章 行き先を広島に決定したことの理由と経緯	15
第3章 平和スタディツアーへ	19
おわりに	32
松尾クラス「社会的弱者に寄り添うこと を考える」	35
第一部 被災者に寄り添う——自助への依存のなか、行政に求められることは何か	36
第一章 将来の災害に備えた防災意識の向上	38
第二章 災害発生時における障がい者支援	46
第二部 女性の貧困を考える	58
第一章 龍谷大学の行う「生理の貧困」に対する取り組み	60
第二章 オイテル株式会社—安心できる社会を実現するために	64
第三章 高槻市の居場所づくり支援の取組み	69
第四章 JOY の取組み	73
山田クラス「問いで探る多文化共生の改革」	77
第一章 日本人が多文化共生を理解するには？	81
第二章 多文化共生社会カタルから日本が学ぶべきことは？	84
第三章 東九条モデルを広めるためには？	90
第四章 多重の壁を抱える外国人を取り残さないためには？	94
第五章 外国人の「声」が届く社会を築くには？	97
第六章 留学生が安心して働く社会を実現するには？	102
第七章 多文化共生キャンパスにするには？	107

おわりに	松尾 秀哉
----------------------	-------